

○32番（三木しんじろう君） 日本維新の会の三木しんじろうでございます。会派を代表いたしまして、令和7年度神戸市各会計予算並びに関連議案について、私、三木と川口議員、そして、なんの議員が、市長及び関係当局に質疑をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず1つ目が、万博に向けた機運醸成並びに子供たちの招待についてお聞きいたします。

大阪・関西万博の開催が4月に迫る中、経済効果を最大限に生かすために、神戸市として積極的に取り組んでいただきたいと、これまで我々維新の会派からも繰り返し要望してまいりました。

当局は、兵庫県等と連携しながら機運醸成に取り組むと答弁してきたものの、万博開催まで2か月を切った現在においても、本気で機運醸成に取り組んでいる様子が見られないと感じております。市民の方からも、神戸のまちには万博関連の広報やプロモーションがほとんど見受けられず、神戸市は万博開催に対して本当に力を入れているのかと指摘を受けることもございます。

経済界や国からも、本市の関わりが求められている中、神戸市の経済効果を考えれば、機運醸成に積極的に取り組むべきだと考えているところではありますが、改めてお伺いいたします。

神戸市独自として、また、兵庫県や関西全体が連携し、市民への広報やインバウンドの需要の取り込みをどのように進めていくのか。また、経済波及効果について、大阪府が2兆621億円、兵庫県が722億円とされている中、神戸市の経済波及効果は、どのように分析し、目標を立てているのか、併せてお聞きしたいと思います。

2点目に、神戸の玄関口を拠点とした交通機能の強化についてお聞きしたいと思います。

神戸空港の国際化や三宮再整備が進展し、神戸の玄関口が大きく変わろうとしている中で、神戸空港からポートアイランドを通り、三宮、さらに新神戸駅まで結ぶ交通の抜本的な強化が不可欠であると考えております。神戸の玄関口をつないでいくことに関して言えば、早く便利に、そして、分かりやすい移動手段の導入は、最低限の必要条件であると思います。

令和7年度予算において、新交通三宮駅のホームの拡張やポートライナーの車両編成の増備の着手のほか、空港アクセスバスの増便や空港と新神戸駅間の自動運転の実証実験が開始されるなど、様々な交通アクセス強化のため、予算が計上されております。

本市としては、これらの取組で、今後、増大が見込まれる交通需要を満たすことができると考えているのでしょうか。また、様々な交通手段がある中で、利用者にとって分かりやすく使いやすい交通システムを実現するために、どのような取組を進めていくのでしょうか。交通アクセス強化の予算編成の考え方と、神戸空港国際定期便の就航が解禁される2030年までのビジョンについて、本市の見解をお伺いいたします。

3つ目は、小・中学校の給食費無償化についてお聞きいたします。

学校給食費の無償化については、国においても議論が進められ、学校給食に関する実態調査結果及び昨年12月には、課題整理に関する報告書が示されました。

本市は、令和7年度予算においても、小・中学校給食の高騰対策並びに中学校給食の半額助成が引き続き計上されております。

一方で、全国の約3割の自治体が既に給食費の無償化に踏み切っている状況があり、神戸市でも、昨年度の教育子ども委員会において、学校給食の無償化を求める陳情が採択されましたが、当局は、これまで国の動向を見守ると答弁をしてくれております。

2026年1月には、神戸市内全ての中学校給食が全員喫食となる予定であることを踏まえ、中学校給食からでも段階的に無償化に踏み切るべきだと考えております。

これまで子育て支援の充実を図るために、本市の判断で中学校給食の半額助成を実施、さらに、

給食センターを整備し、来年度から中学校給食の全員喫食が実施されます。冷たい給食と子供たちに不評だったランチデリバリー方式をやめ、全員喫食とし、温かい給食の提供を行う取組については、会派としても推進してきたこともあり、評価をしているところではありますが、給食費の無償化についてのみ、国の動向を見守るのではなく、中学校給食からでも段階的に無償化を図るべきだと考えますが、見解をお伺いいたします。

最後に、中学校部活動の地域移行、K O B E ◆ K A T S Uについてお伺いいたします。

令和8年度中に中学校の部活動は終了し、地域団体などが主催するK O B E ◆ K A T S Uへと移行する方針が示されていますが、保護者や担い手となる団体からも、具体的内容が分からないという声が多く上がっております。自分の地域にどのような団体が来るのか、習い事との調整は柔軟にできるのか、送り迎えや開催頻度はどうなっているかなど、保護者にとって知りたい情報が多くあり、心配の波が広がっているように感じております。また、団体からは、試合や披露の場はあるのか、場所の確保、参加費など、説明を求められることもあります。

各地域や各活動によって様々な環境の違いがあるため、細やかな制度設計の検討が必要であり、9月からは先行実施が予定されておりますが、教育委員会から早急に素案を示した上で、早い段階で保護者や応募団体と意見交換を行い、よりよい制度になるようブラッシュアップを重ねていくべきだと考えますが、見解をお伺いいたします。

以上、御答弁のほどよろしくお願いいたします。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 久元市長。

○市長（久元喜造君） 三木議員の御質問のうち、私からは、神戸の玄関口を拠点とした交通機能の強化につきましてお答えを申し上げます。

神戸空港の国際化に当たって、交通アクセス強化は重要な課題であると認識をしております。ポートライナーにつきましては、1日を通して見ると、輸送力に余裕がありますが、朝のラッシュ時間帯は、通勤・通学利用者を中心とした利用が集中していることから、三宮駅及び神戸駅からポートアイランド方面への社会実験バスを運行するなど、ポートライナーの輸送力を補完する取組を継続的に行ってまいりました。

令和7年度予算におきましては、引き続きバスによる輸送力補完を基本といたしまして、その機能を高める取組をバス事業者とともに実施をいたします。分かりやすくかつ速く便利に移動できることは重要でありまして、4月からは、三宮駅前バス停をJR三ノ宮駅東口近く、具体的には、三宮駅ターミナル前3番乗り場に移設をいたします。

また、新神戸、三宮から神戸空港を結ぶ空港アクセスバスを増便するとともに、路線を空港の第2ターミナルへ延伸をいたします。

さらに、昨年、市民投票により、空港アクセスバスの愛称をマリンエアシャトルに決定したところでありまして、愛称を活用した案内サインと誘導サインの充実を4月18日までに完了させる予定としております。

これに加え、バス交通では、将来的な自動運転の実装に向けた実証実験に着手をいたします。

一方、ポートライナーでは、車両の増備や三宮駅のホーム拡張など、令和12年頃、2030年頃の本格的な国際定期便就航を視野に入れた取組も行います。

神戸空港の国際化に向けたアクセス強化につきましては、空港の状況変化などを踏まえながら、アクセス需要に応じた対応を取ることが必要です。今後とも引き続き、空港を取り巻く環境の変

化や、空港アクセスの日々の状況をしっかり注視しながら、対策の必要性和具体的な施策を積極的に検討してまいりたいと存じます。

ほかの御質問につきましては、副市長からお答えさせていただきます。

(「議長」の声あり)

○副議長(堂下豊史君) 小原副市長。

○副市長(小原一徳君) 私のほうから、万博に向けた機運醸成等につきまして御答弁申し上げます。

大阪・関西万博につきましては、国内外から2,820万人の来場が見込まれておるところでございます。経済産業省の試算では、その経済波及効果は約2.9兆円とされているところでございます。その効果をしっかりと市内へ波及させる取組が必要だと認識しているところでございます。

こうした中、県下で展開されますひょうごフィールドパビリオンでは、現在260件のプログラムが認定されているわけですが、このうち神戸市内でも、神戸らしい食、例えば、神戸ビーフ、灘の酒、パン、コーヒーなどの食、さらには、海、六甲山、里山といった自然、真珠、靴などのものづくりなどが見学・体験できる魅力的なプログラムが44件認定されているところがございます。

その中には、神戸観光局や公園緑化協会など、神戸市関係団体が提案したプログラムも多数含まれておりまして、県・市が一体となって、兵庫・神戸の魅力発信や誘客に取り組んでいるところでございます。

このたび、万博開幕を控える中で、令和6年度補正予算を含む万博関連予算として約1億円を計上しているところがございます。そうした中、機運醸成の取組も進めてきたところがございます。これまでも市が所管する施設133か所におきまして、ポスター等を掲出することに加えまして、ミャクミャクを招いた市内イベントでのPR、これは、第40回神戸港ボート天国、神戸まつり、神戸空港開港19周年サンクスフェスなどでPRをしたところがございますし、神戸芸術工科大学と連携したカウントダウンボードの設置、神戸空港や神戸阪急での懸垂幕、横断幕の設置、ラッピングバスの運行等を行いますとともに、関西電力兵庫支社のビルラッピングにも協力するなど、産官学で連携し、市内での機運醸成に取り組んできたところがございます。

これらの取組に加えまして、今後も万博会場内での催事や海上輸送など、あらゆる機会を通じて、市内はもとより関西全体で盛り上がりにつながるように機運醸成に努めてまいりたいと考えているところがございます。

また、2025年は、神戸空港が国際化するタイミングでございます。市内経済の活性化に向けましては、この万博と空港国際化を一体的に捉え、インバウンドやビジネス需要を取り込んでいく観点が重要であると考えているところがございます。そのため、インバウンドの市内誘客を見据え、手ぶら観光の推進、神戸観光公式ホームページの多言語化等に取り組むほか、市内の宿泊施設や観光施設、飲食店等と連携したキャンペーンの実施などによりまして、市内消費の拡大につなげていきたいと考えております。また、万博視察に合わせまして、国内就航都市の商工会議所とのビジネス交流の実施のほか、海外からのビジネスミッション団を通じた商談会等により、市内企業の販路拡大につなげることによりまして、ビジネス需要の創出も期待できると考えているところがございます。

いずれにいたしましても、関西全体で盛り上がり貢献できるよう、兵庫県や経済界等と連携しながらしっかりと機運醸成に努めるとともに、万博による経済効果を確実に市内経済の活性化

につなげてまいりたいと考えているところでございます。

(「議長」の声あり)

○副議長(堂下豊史君) 福本教育長。

○教育長(福本 靖君) 私のほうからは、2点御答弁させていただきます。

まず、小・中学校の給食無償化のことでございます。

本市の給食費については、就学援助による無償提供や食材価格高騰分の公費負担、中学校給食費の半額助成等、これまでも保護者の負担軽減に努めてきているところでございます。

また、本市の中学校給食においては、生徒や保護者のニーズを踏まえ、ランチボックス方式から食缶方式による全員喫食制の温かい給食への移行を順次進めているところであり、令和8年1月から全校での実施に向け、現在全力で取り組んでいるところであります。

神戸市の考え方としましては、給食費は、学校給食法の規定により食材費等に係る経費については保護者負担とされているため、無償化については、本来は国において学校給食法を改正し、対応いただくべきものと考えております。

無償化の実施については、中学校だけで毎年約19億円、小学校も含めると毎年約57億円もの多額の財政負担が必要であり、子育て支援施策全体の観点から、全市的に判断する必要があると考えております。

神戸市としましても、令和7年度国家予算要望において、無償化をはじめとした恒久的な制度創設と必要な財政支援を国に要望しているところであります。

国の動向ですが、御指摘のように昨年6月に学校給食に関する実態調査の結果が、また、昨年12月に学校給食無償化に関する課題の整理について公表されました。さらに、先日、これらの課題を検討した上で、令和8年度以降できるだけ早期に小学校の給食無償化を目指す考え方も示されました。

今後、国において安定的な財源の確保策を含めた無償化の制度について検討される見込みであり、教育委員会としましても、その動向を注視しながら市長部局ともしっかり情報共有を図り、適切に対応していきたい、そのように考えます。

次に、中学校の部活の地域移行のことです。

部活動の地域移行は大変大きな改革であるため、保護者の皆様が様々な視点から不安に感じられるのも最もであり、これまでもQ A方式を含むホームページ等で情報発信に取り組んでいるところでございます。

また、移行後の活動について、具体的なイメージを持っていただくため、現在、部活動にはない種目を中心に体験会等も実施してきました。担い手となっていただく団体に対しては、市長部局と連携しながら、神戸総合型地域スポーツクラブの会議や、各種競技団体向けの説明会等で周知を進めてきたところであります。また、専用ホームページを作成し、SNSも含めて情報発信に努めております。

保護者の皆様にも、団体の皆様にも、よりK O B E ◆ K A T S Uがどのようなものになるのかをイメージしていただけるよう、3月下旬には、第1次募集における登録団体について、種目や活動予定場所等も含めた具体的な事項について公表したいと考えております。また、9月からの開始予定の先行実施についても、できるだけ早期にお示ししていきたいと考えております。

今後も、保護者や団体の皆様からの御意見等を踏まえ、課題を整理しながら、多様な活動に参加できる機会の確保に向けて取り組んでまいりたいと、そのように考えます。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） ありがとうございます。

それでは、再質疑させていただきます。

まず、万博のほうからさせていただきたいと思えますけれども、開催まであと47日ということになりました。先日、市長は指定都市市長会で万博会場を視察されたということですが、その視察された印象とか所見などありましたら、まず最初にお伺いしたいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 久元市長。

○市長（久元喜造君） 指定都市市長会として、大阪・関西万博につきましては、大阪市さんのほうからも説明があり、また、各市長からも大変関心が高いということから、指定都市市長会が主催する形で、先日、現地視察会を開催させていただきました。17の市から市長は5人、あとは副市長を中心に17の都市の皆さんに参加をしていただいた。全国知事会よりも参加率は相当高かったというふうに思います。

これは、それぞれの市長の、あるいは参加者の感じ方にもよると思えますけれども、私自身は、1つは新しく開業した夢洲駅が、これは今までにないような地下鉄の駅でありまして、大変今後の公共交通を考える上で参考になりました。あと、会場を視察して感じたことは、まずリングに登らせていただきましたけれども、想像してた以上に巨大な施設です。そして、リングから内側の海外のパビリオンがたくさんもう既に出来上がってきておりまして、全体の印象としては、順調にパビリオンの建設が進んできているというふうに感じました。

あと、関西パビリオン、それから大阪ヘルスケアパビリオンを視察させていただきましたけれども、特に大阪ヘルスケアパビリオンは、神戸も医療産業都市を展開していることから、この取組については、神戸市でもPRをして、たくさんの方に足を運んでいただければというふうに、そんな印象を持ったところです。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） 参加者の方々も多かったということで、非常に期待されてるのかなというふうに感じます。私のほうも昨年の8月ですかね、リングが完成した後に視察に行かせていただいて、登らせていただいたときには、やっぱり市長と同様、大きさに驚いたわけでありまして、副市長から御答弁ありましたように、神戸も、催事も含めてフィールドパビリオンでも携わっているということですので、ぜひ神戸市民の方々も、せっかく関西で行われるわけですから、訪れていただきたいというふうに考えております。

それで、万博の子ども招待プロジェクトについてお聞きしたいんですけれども、この招待プロジェクトのほうは、公・民が連携して学校行事として万博会場へ訪問すると。対象人数は最大56万人、県内ですけれども、対象の小学生が28万人と、中学校は中学生が15万人、高校生は特別支援学校も含んで13万人ということで、この募集をしているわけなんですけれども、兵庫県から神戸市の教育委員会に対してもアンケート調査のほうを行っていると思います。このアンケート調査の結果なんですけれども、昨年の秋頃実施された調査では、大阪府内の学校は80%が希望すると。そして、兵庫県はかなり落ちて21%、神戸市は13%ということなんですけれども、会場への移動ルートや熱中症対策、メタンガスの対策など懸念点は多いというふうに聞いておりまして、

博覧会協会のほうもホームページで随時説明をしたり、また、説明会を開いたり、いろんなことをしてるわけなんですけれども、教育委員会のほうからは、このアンケートのほうを事前にいただきまして見せていただきました。やはり去年の秋に実施されたということで、かなり情報が古いというふうに僕は感じました。今現在、例えば、団体の休憩所とか、車椅子対応とか、細かいことを言ったら団体の写真撮影とか、あと会場内のトイレの設置とか、救助隊についてとか、台風や落雷対応等に、新たにブラッシュアップして、更新して発信しているところもあると。

教育委員会からアンケートを取っていただいた内容には、これらのほうは時期的な問題もあって、入っていなかったわけなんですけれども、これらの内容を踏まえて、ある意味、再度各学校に聞くということも考えられると思うんですけども、その辺の見解をお伺いしたいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 福本教育長。

○教育長（福本 靖君） 御紹介ありました兵庫県の公・民連携による万博子ども招待プロジェクト、これに対して、神戸市立の学校の参加希望は、2月10日現在で、小学校4、中学校21、高校5、特別支援学校2、合計32校ということで、先ほど御指摘あったパーセントとほぼ同じような形で、2月10日時点でも推移しております。

御承知のように、校外学習の行き先については、基本的にはそれぞれの学校がそれぞれの実情に応じて決定することになっております。

万博に関して、アクセス方法や安全対策、下見の実施等について、これまで各説明会や専用のホームページについて、適宜学校向けの情報は提供されており、教育委員会としましても、学校が検討する上で必要な情報を速やかに提供はしてきたところでございます。

ただ、今、御指摘がありましたように、決める段階なんです、校外学習を決めるという時期がやはりなかなか余裕を持って決めるということがこれまでもなされておりますので、そのプロセスと、先ほど言いましたような様々な懸念がうまく学校のほうで解決ができないまま進んでいる部分はあろうかと思えます。

今後も兵庫県、市長部局と連携しながら、学校園に対しては、必要な情報提供、情報発信はしていきたいと考えております。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） 保護者の方からお聞きしたのは、今、教育長が言われた32校、学校に自分の子供が行ってる学校が入っているのかどうか分からないという問合せがありまして、それは子供たちにとっても保護者にとっても気になるころだと思えますけれども、私自身は、昨年の予算議会においても、長田教育長にですけれども、体験学習についてお聞きしたところ、児童・生徒や保護者の声に十分耳を傾けながら、子供たちにとってより意義のあるものになるように考えているという御答弁ありました。

私としては、やはり学校のどなたがこれを判断されているか分かりません。多分、校長先生か教頭先生かもしれないですけども、子供たちの意思を聞く場というのも大変大事だというふうに思っております。それと、教育委員会に兵庫県から出されたアンケートの中には、学校単位じゃなくても、学年とか学級単位でも申請することが可能というふうになっているんですけども、この辺り、どなたが判断されて、学校全体ではなくて、学級とかの単位でアンケートを取られているのか、この辺りをお聞きしたいと思います。

(「議長」の声あり)

○副議長(堂下豊史君) 福本教育長。

○教育長(福本 靖君) 校外学習の行き先や内容については、各校において教育的な効果や、当然、安全性を中心に様々な角度から検討され、昨今では、当然、児童・生徒や保護者の意見をアンケート等で取り入れながら決定されております。

当然そのような過程を踏むために、一定の時間的な余裕も必要なこともあります。先ほど答弁させていただきましたが、このたびの万博については、下見の可否もなかなか決定されず、安全面に関する情報が十分にそろわなかったために、参加の判断が非常に難しかったと現場のほうからは聞いております。

したがいまして、計画策定のスケジュールの兼ね合いから、学校が保護者に逆に提供できる情報が不覚的な要素が多かったため、事前に意見を求めることも難しかったと認識しております。

当然32校の参加する学校については、最終的に教員が下見等をし、確認した上で、児童・生徒や保護者に順次細かな説明をしていくものと考えております。

先ほど単位で、学校単位、学年単位ということがありましたが、このたびの参加につきましても、学校で行くところ、学年で行くところ、そこは様々な分かれ方をしております。

以上です。

(「議長」の声あり)

○副議長(堂下豊史君) 三木君。

○32番(三木しんじろう君) これはやはり学校によって、例えば、クラスで聞いている学校もあれば聞いてない学校もあると。誰が判断してるかもよく分からないということになれば、なかなか子供たちの意見も反映されないのかなというふうに思っております。ぜひとも、情報も新しく更新もされておりますので、子供たちにも聞けるようなことができるならば、私は聞いていただきたいと思えますし、その意見というのも反映していただきたいというふうに思っております。

これはなかなか兵庫県の制度では、学校の行事じゃないといけないということになっているんですけども、大阪府では、学校単位で行かなくても、個人にチケット、子供たちにチケットを配るといような取組をしております。当然、子供たちにとって行きたい子供もいますので、こうした取組というのは僕は有効的だなというふうに思っているんですけども、まず1点は、学校行事で行けなくても子供たちの判断で行けるように、個別の配布を兵庫県に再度要望していただくというか、お話ししていただけないのかというのが1点と、もう1つは、不登校の児童・生徒も多いですけども、出席扱いになっているフリースクールにこのチケットを配布というのはしていただくというのは可能かどうかというのも協議していただきたいと思うんですけども、この辺りの御見解をお伺いしたいと思います。

(「議長」の声あり)

○副議長(堂下豊史君) 小原副市長。

○副市長(小原一徳君) 今議員から御指摘ありましたとおり、例えば、大阪府内では府内の小・中・高等学校に通学する子供に対して、学校単位で参加する場合のほか、学校単位での参加を希望しない場合にも個人単位での入場券のチケットを無料配布する、こういった取組があるとお聞きしているところでございます。

一方で、兵庫県の万博子ども招待プロジェクトにおきましては、県内企業の協力により、県内の小・中学校、高等学校が、学校もしくは学年単位で訪問する場合を対象としたものでございま

す。兵庫県では、昨年10月の県議会におきまして、家庭環境による体験格差が生じる可能性があることから、教育の一環としてより多くの子供たちが参画できるよう、学校行事としての訪問を重視するとの答弁が示されておりまして、個人単位への入場チケットの無料配布は行わない方針であるとお聞きしているところでございます。

あと、フリースクールの取扱いについては、ちょっと私どもまだ何も確認ができておりませんので、今特にコメントできるものは持ち合わせておりません。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） 多くの方に行っていただきたいので、格差が起こるから学校単位で行かなければならないというふうに多分言われたと思うんですけども、行きたいと思われる子供がいたら配ってあげるほうが僕はいいと思うんですけども、そこも含めて、兵庫県とまたどういう流れになるのか、まだ期間は、4月から始まってまだ期間がありますので、もしその協議でできるんだったら協議していただきたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

続いて、神戸の玄関口を拠点とした交通機能の強化についてお聞きいたします。

先ほど手ぶら観光の御説明がありましたけれども、私も、この混雑や渋滞を想定される中、大きな荷物を持って宿泊先に移動するというのは大変なことですし、大変いい取組だと思っておりますので評価をしております。

それに加えて、東京メトロのように、駅内を例えば色分けしていただいて、例えば、外国から来られた方とか、国内でも神戸に初めて来られる方が、例えば、神戸空港から新神戸に移動するとか、逆もあると思います、三宮から神戸空港に移動することもあると思うんですけども、もう一目で見て、色分けされた、要は動線というような、こういう取組というのを入れていただきたいというふうに思っております。

それと、駐車場の件なんですけれども、国際化になりますと、長期、神戸から離れる方も多くなると思います。駐車場のほうも長期間駐車場に止められるということも想定されると思うんですけども、私自身は、空港の前の駐車場がもういっぱいになってしまって止めれなくなるというような状況に当然なっちはいけないと思いますし、空港棟以外にも車を止めるスペースというものもちょっと考えておかなければならないのかなと思うんですけども、様々な選択肢というのは準備しておかないと駄目だと思うんですけども、今後の対応策について御見解をお伺いしたいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 今西副市長。

○副市長（今西正男君） 神戸空港への国際チャーター便就航に合わせまして、第1ターミナル東側に駐車場を新設することにしておりまして、これは419台分でございます。既存の駐車場と合わせて約2,500台分を確保することで、旅客の増加に対応することとしているところでございます。また、繁忙期に満車となる場合は、臨時駐車場約600台を活用することで十分に対応できると考えているところでございます。

いずれにいたしましても、先ほど御指摘ありましたように、今後の旅客の増加ということも見込まれますので、実際に国際チャーター便の運用が開始した後の駐車場の利用状況などを踏まえながら、関西エアポート神戸と連携して対応してまいりたいと考えております。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） 駅内の色分けについては、ちょっと分かりやすく考えていただきたいなというところあるんですけども、こちらの可能性について何か御見解を教えてくださいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 今西副市長。

○副市長（今西正男君） 今、三宮の再開発でもやらせていただいておりますように、非常に分かりやすく移動するということは大変重要な観点だというふうに考えているところでございます。新神戸の駅でもそういった表示をさせていただいているというようなケースがあるかと思いません。

一方で、色分けといいますか、地面に置くのか、それとも表示できちっとした色をやるのかというのは、様々なちょっと中でも議論がありまして、どんな形で誘導するのが一番効果的なのかというのは、十分検討の上、対応させていただきたいと考えてございます。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） ぜひとも御検討いただきまして、バスもいろんなバスが出ておりますので、分かりやすくしていただきたいと思います。

2030年にはいろんな、神戸市内でも国際線の定期便も始まりますし、再整備のほうも数々のものが立ち上がるというふうに思っているわけなんですけれども、その中で、新神戸駅の活性化というのが、生田川公園というのも再整備がされるというふうに聞いておりますけれども、やはり私は、新神戸駅に人が降りていただく、乗っていただくというのは大変重要だと思っているんですけれども、よくね、市民の方からもそうですし、僕も感じる事なんですけれども、新幹線の乗車券がやはり神戸市内の乗車券でついているわけなんですけれども、新神戸駅で降りたら、また地下鉄に乗ってJRに乗り換えなければならないというような、プラス料金が必要になってくるわけなんですけれども、そういうことを考えれば、新大阪で降りて、そのままJRで神戸に入ってくる方も多くいらっしゃると思うんですけれども、これは私の個人的な考えなんですけれども、新神戸駅から三宮のこの1駅間、神戸市の交通局にも関わる事なんですけれども、乗車券を持っての方は無料にできないのかなというふうに思っております、こうすることによって新神戸駅の乗降率というのが多くなって、経済波及効果にもつながると思うんですけれども、ちょっとその辺のもし御見解があればお聞かせいただきたいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 城南交通局長。

○交通局長（城南雅一君） ただいま新神戸駅のさらなる活用につなげるため、新幹線の利用者に対する地下鉄乗車料金の免除について御質問をいただきました。

交通事業は地方の公営企業法によりまして、独立採算の原則、地方公営企業の経費は、経営に伴う収入をもって充てなければならないと定められているところでございます。

新幹線御利用の方に対しまして、地下鉄料金を免除してはどうかという御提案でございますが、交通局におきましては、運輸収入が単純に減収となりまして、当該減収分を一般の御利用者へ転嫁し、御負担いただければならざるを得ないということになります。料金負担の公平性を勘案いたしますと、御提案の施策を進めるといえるのは、非常に判断は難しいというふうに考えてい

るところでございます。

また、もし仮に免除をするといたしましても、新幹線で来られた方であること、もしくは、これから新幹線を利用される方であること、これを識別する必要がございます。そのため、JR東海、JR西日本を含めました大規模なシステム改修や、ほかのお客様が紛れ込まないように、新幹線の改札口と地下鉄の改札口を専用の通路で結ぶなどの大きな投資も伴うこととなりますので、これらも地下鉄の経営にインパクトを与えるものだと想定しております。

また一方で、新大阪のように改札外に出ることなく乗換えができるようになれば、新神戸駅は単なる乗換駅となりまして、新神戸駅エリアの活性化につながらないことも危惧されております。

いずれにいたしましても、多くの困難な課題があることから、御指摘いただきました経済効果との関係性も含めまして、慎重な議論を要するものと考えておるところです。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） 難しいというのは重々承知でお聞きしました。

神戸は、神戸空港との距離が大変近くて便利な反面、やはり新神戸駅が離れているというような、僕としてはちょっとデメリットといいますか、土地の関係があつてなかなか新神戸駅の乗降率が上がらないように感じております。

経済活性化で言いますと、神戸市は西のゴールデンゲート、または瀬戸内地域の連携強化というのも十分に組み込んでいただきまして、国際線国際線と今話題になっておりますけれども、国内線ももちろん力を入れていただきまして、神戸の活性化につなげていただきたいと思います。

続いて、KOBED◆KATSUについてお聞きしたいと思います。

僕も620件の申請というのを見せていただきまして、大変多いなというふうに思いましたし、ゴルフとか釣りとか、今まで部活動になかったものが多く入っているということを感じております。やはりこういう新たな今まで部活動になかったスポーツ体験とか文化部の体験ができる前向きな発信というのもしていただきたいというふうに考えております。

私自身は、議会でも委員会でもいろんな議論があると思いますけれども、教育委員会はやはりこのKOBED◆KATSUに関しての素案というのを作成していただきまして、皆様にお示ししていただきたいなというふうには思っております。最初に始めるものですから、やはり問題も出てくると思いますし、いろんな地域によっても課題が出てくると思うんですけれども、ここは1つずつ解決していただいて、いいものにしていただきたいと。

教育長も、川西市のほうでもいろんな事例とか経験もされていると思いますし、こちらの経験も生かしていただきまして、とにかく分かりやすく、区ごと地域ごとに発信をしていただきたいというふうに思っております。

この辺り、やはり子供たちの目標を持つということも大変大事だと思っております。運動系ならば試合とか、文化系ならばお披露目の場というような、そういうことも大事だと思うんですけれども、これらの発信についてとか、この情報の素案についての取組についてどういうふうに行っていくのか、見解をお伺いしたいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 福本教育長。

○教育長（福本 靖君） KOBED◆KATSUのメリットの1つが、これまで部活動になかった種目も含めて、校区を超えて子供たちがやりたいことに参加できるということにあります。した

がいて、多くの団体の参加を今求めているところでございます。

今御指摘いただきましたように、第1次募集では想定を上回る応募をいただきまして、その中で、非常にバラエティーに富んだ活動内容もございます。今、紹介していただいたもの以外でも、空手とか太極拳、このようなものは若干応募が多くなる想定はしておりましたが、スポーツでは、ボルダリングやダブルダッチ、フェンシングなどの応募もありました。そのほか、このようなスポーツや芸術活動以外ですが、特徴的なこととして、やはり神戸の自然に親しむ野外活動、地域のイベントを企画するような活動、それから、獅子舞や神楽舞といった伝統芸能、さらには、農業、または消防団活動、このような応募もあり、市民の皆様の非常にこのような形での熱い思いや、中学生が地域の活動に果たす役割への期待のようなものが伝わってまいりました。

先ほども答弁させていただきましたが、登録された団体については速やかに公表し、新たな活動についてもより具体的に発信することで、次の応募につなげたいと、そのように考えております。

今後も、地域の多くの方々が協力いただきながら、子供たちにとってわくわくするような活動になるよう取り組んでまいりたいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） ぜひともお願いしたいと思います。やはり保護者の方が、まだ開始されてないので心配事もあります。会費とか移動に関しても大変心配されているところもあると思うんです。僕自身はバウチャー制度を導入していただいたらいいのかなというふうに思っているんですけども、さらにこのK O B E ◆ K A T S Uが進められている背景には、少子化だけではなく教員の多忙化対策というのもあると思うんですけども、部活動を地域移行して、果たして教員の多忙化というのが解消されていくのかということも改めて検証もしていただいたり、教員の方にも意見をお聞きいただきたいというふうに思っております。

ちょっと時間がないので給食のほうに行きたいんですけども、なかなか国に要望していただいても厳しい状況であると思っておりますけれども、ぜひとも私どもとしましては、給食費を無償に進めていきたいというふうに考えているところであります。

中学校の給食の半額助成に関しては、やはり令和2年に始まって、2億5,400万円ということで、令和7年には7億900万円というふうに、やっぱり全員喫食が進むにつれ、金額も大きくなっております。ですので、この辺りもう一歩、私としては進めて、中学校からでも段階的に無償化というのを進めていただきたいという思いがあります。

そして、中学校の給食以外にも、長期の休みの給食、例えば、児童館とかその辺りの配膳、要するに提供というのが、皆さん大変ニーズが高いというふうに思っております。垂水のほうの第一給食センターが新設されまして、一部学童に対して給食を提供する予定というふうに聞いております。この辺り、今後、検討状況でどのように進めていくのかお聞きしたいと思います。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 小原副市長。

○副市長（小原一徳君） 夏休み中の学童保育におきます昼食提供につきましては、保護者のニーズが高いということ。また、一部の学童保育施設では自主事業として実施してきた事例、こういったものをほかの館においても共有すること。また、市内の中学校給食の受託事業者による弁当配送。こういったモデル事業の実施を通しまして、実施施設の拡大に取り組んできたところでご

ざいます。

そうした中、給食センターを活用した夏休み期間中の学童保育施設への給食の試験実施につきまして、現在まだセンター自身が稼働後間がないこと。また、学校給食と学童保育における利用人数と異なることから、実施施設との調整、また、実施方法に関する協議を今現在行っている最中でございます。

今後、利用者、また施設等の意向等もお聞きしながら、実施に関する案内も早期にできるように具体的に検討を進めていきたいと考えているところでございます。

（「議長」の声あり）

○副議長（堂下豊史君） 三木君。

○32番（三木しんじろう君） ありがとうございます。やはり今、夏休みというお話だったと思うんですけども、春休みも冬休みもありますので、夏休みがもし実現できたら、春休みとか冬休みにやっていただきたいと。学童によっては、当然、給食を持ってきたら保管をしないと駄目な場合もあると思うんですよね。夏場に関しては、菌の問題とかいろいろ課題もあると思いますけれども、また学童のほうでも、設備等含めて、環境も含めて、また御検討いただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、交代させていただきます。ありがとうございました。